

令和 5 年度 第 3 期

論文式刑法試験問題

受験上の注意事項

- 1 監督者の指示がある前に、この問題を開くことを禁止します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。この試験では、六法を貸与し、その使用を許可します。
- 3 試験開始の合図の後、印刷不鮮明等に気付いた場合は、黙って手を挙げ、監督者に申し出てください。
- 4 解答は、答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また、鉛筆は不可です。
- 5 試験時間は60分です。
試験開始後20分以内及び試験終了前5分間は、答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には、黙って手を挙げ、自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。
- 6 この問題は、試験終了後、持ち帰ることができます。
- 7 次のもの以外は机上に置かないでください。
受験票、筆記具、時計（計算機能等のないものに限る。）、眼鏡。
受験票は、氏名、受験番号が記載されている面を表にして、監督者が見やすい位置に置いてください。なお、上記以外のものについては、監督者の許可を得てください。
- 8 問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題用紙に限り認めます。
- 9 携帯電話等は、必ず電源を切って鞆等にしまってください。
- 10 試験室内では、耳栓の使用はできません。
- 11 試験時間中の発病等やむを得ない場合には、黙って手を挙げ、監督者の指示に従ってください。
- 12 試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は、禁止します。
- 13 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、監督者の指示を待ってください。
- 14 不正の手段によって試験を受け、又は受けようとした者に対しては、試験を停止し、合格の決定を取り消すことがあります。

〔刑 法〕

次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

- 1 甲は、知人Aに一方的に恨みを抱き、Aを、自動車に海に落ちた事故により死亡したように見せかけて殺害しようと考えた。しかし、Aが運転する車を無理やり海に転落させることは難しいと考え、まず、Aにクロロホルムを嗅がせて意識を失わせた上で、Aを車に乗せ、その車を岸壁から突き落とす計画を立てた。
- 2 甲は一軒家に一人暮らしをしていたが、ある晩、Aを自宅に呼んで酒を飲ませた上、午後9時30分頃、酔ったAの背後から多量のクロロホルムを染みこませたタオルをAの鼻口部に押し当てて、クロロホルムを吸引させたところ、Aはぐったりとして意識を失った。
- 3 その後、甲は、自宅敷地内に駐車してあった、Aが運転してきた車にAを乗せ、自ら運転して約2キロ離れた港の岸壁まで運び、ぐったりとして動かないAを運転席に座らせた上で、周囲に人がいないことを確かめた後、午後10時20分頃、岸壁から車を突き落として沈めた。
- 4 Aの死因は、甲の計画とは異なり、溺水に基づく窒息ではなく、クロロホルム摂取による呼吸停止及び心停止によるものであることが判明したが、甲は転落時に既にAが死亡していることに気づいていなかった。

〔設問〕

〔事例〕における甲の罪責について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

